

『注文を間違えるレストラン・ルネストラ』: 認知症の方を優しく支えられる地元高校生を育てよう!

★地域包括ケア みつネット

- # 岡山県立岡山御津高等学校
- # 国立病院機構岡山市立金川病院
- # 岡山市北区北地域包括支援センター御津分室
- # (株)成広薬局



【概要】

認知症患者を給仕役にした『注文を間違える料理店』という企画は東京で初めて開催され、関わる誰もが「認知症を受け入れ楽しむ」という新しい価値観として注目されています。私達は、これからのまちづくりを担う地元高校生を認知症サポーターとして育成するプログラムを御津高校と企画し、仕上げの実習として、生徒自身が立案し運営する、一日だけのレストラン『ルネストラ』を協働で開店しました。給仕役の患者達をサポートする生徒達の活躍が素晴らしく、参加者全員が笑顔と優しい気持ちに満たされました。認知症への理解をひろげる新しい地域に密着した協働の取り組みとして、今後も継続・発展していきたいと考えています。

【取り組みの目的】

- ① 認知症に関する一般住民の理解を深め、町ぐるみで患者および家族を支える土壌を作ること。
- ② 地元高校生が、地元住民との世代間交流を通して人生や社会生活などについて学び、土地や学校への愛着を深めることで、町おこしへの意識啓発を図ること。

【取り組み内容】

- ① 御津地区在住の認知症患者4名を給仕役とし、御津高校生15名がサポーター役となりレストランを開店しました。事前準備として、みつネットスタッフが認知症サポーター育成講座を実施し、認知症患者への接し方について教育しました。
- ② レストラン開店当日は、23名の客が来店し、スタッフ含め総勢60名で約2時間半にわたって開店しました。閉店後、反省会を実施し、生徒にはレポートを作成させました。

【成果】

(参加した患者・患者家族に対して)

患者各自は、レストラン参加中、大変楽しそうに笑顔にあふれ、高校生たちとの交流を楽しんでいたように見えました。どの家族も、「こんなに楽しそうな顔を見るのは久しぶりだ」と述べており、早く2回目を開催してほしいとの希望が寄せられています。患者各自は、このレストラン企画が終了した翌日には、すべてを忘れていましたが、怒りっぽくなるとか、徘徊するなどの行動面での問題は平素よりむしろ落ち着いていたようです。

(高校生・高校教諭に対して)

認知症サポーター養成講座の頃は、まだ真剣度が不十分であったようにも思われましたが、準備を進めるに従い、指導教諭との一体感が増し、開催当日に、各自の持ち味が最大限に引き出されたと思われました。終了後の反省会では、「このような体験をしたことが大きな自信になった」と述べる生徒が多く、自己肯定感を得たことは、今後の人生の大きな糧となったと感じられました。全員が「後輩にも伝え、御津高校の伝統にしていきたい」と述べていたことは、大きな財産と思われました。

(みつネットの医療介護関係専門職に対して)

医療介護専門職という枠にとらわれるのではなく、身近にいた高校生という資源が、今後の地域包括ケアの必要な担い手となりえることを強く認識させられました。



認知症サポーター育成講座を開催



笑顔と温かみあふれるルネストラ